

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000072		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム 千花		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字芦北2592-1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH千花は、H25年4月に開設し3年目となります。周辺には公共機関や商業施設が徒歩で行ける範囲にあり大変便利な場所にあります。室内は完全バリアフリーで日当たりも良く、外には畑もあり利用者様と一緒に野菜を育て収穫し美味しく頂いています。時には裏の庭でランチをする事もあります。秋には夕焼けが大変綺麗に見えます。又8月には町内花火大会がホームより見学することが出来ます。町内の色々な行事にも出かけていきます。町外へのドライブも月に1度は行くようにしています。食事は、季節の新鮮な食材で職員が毎日メニューを考え、手作りで提供しています。職員は、20代～60代でそれぞれの意見を出し合い日々支援させて頂いています。千花の理念の基、思いに気付き寄り添い、笑顔の花を咲かせ、穏やかな日々を送って頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目のホームでは、日常的に個別ケアに取り組み、買い物等の個別外出の他、ドライブや故郷訪問等全員で出かける等楽しい時間を支援している。入居者のあるがままを受け止め、出来る力(料理の下ごしらえ・掃除、他の利用者への傾聴等)や役割のある日常が自信回復として生かされ、入居者同士の労いのある生活ぶりに、“ホームを自分の家と思ってもらいたい”とする職員の思いが表出している。法人での委員会活動や、働きやすい職場環境が離職も無いという馴染みの関係性の中での個別の暮らしとして生かされている。また、自然体での対応と、今年度は毎日が反省として、振り返りノートの活用はケアサービスの向上として生かされ、法人の理念である“尊厳・個性・主体性”を実践している。商業地という中で、希薄になりがちな近隣との関係を築くための努力を惜しまず行うことで更に地域生活を拡充させ、母体である病院との連携は、家族の安心感となり、“笑顔を持って”とする職員のケア姿勢は入居者の笑顔も引き出し、温かいホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの横に貼り理念を出勤退社時声に出して読んでいる。又千花での理念も作り全職員で共有し実践に繋げるよう努めている。	法人の理念とともに全職員で作上げた独自の理念を、音読や目にする事で意識付けとし日々のケアに反映させている。職員は自然体で関わり、午前・午後のスイッチを切り替えながら笑顔あるケアに努め、入居者目線での会話が個々の思いを引き出している。また、今年度は職員個々が振り返りノートを活用しながら言葉がけやケアを振り返る等理念を具体的な形で捉えている。地域密着型事業所としても、“千花通信”を活用しながら近隣への啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者職員は近隣の方への挨拶には常時心掛けている。ほぼ毎日近所を散歩したり、近くのお店へ買い物に出掛けている。避難訓練など手伝いを呼びかけている。6月の1日一汗運動にも参加するようにしている。	日常の散歩や買い物、地域の行事や祭り見学等住民との交流する機会は多岐に亘り、自治会への加入、自主防災組織や一日一汗運動に入居者とともに参加するなど地域の一員として活動している。“千花通信”の回覧とともに、商業地の中にあるホームとして希薄になりがちな関係を払拭するため配布に回ったり、家族会へも近隣に参加を呼びかけている。離苑時の声かけに協力したい等の声も寄せられ、避難訓練へも参加を得る等地域とのかかわりを一層深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の行事に参加し地域の方々と交流を深めている。町主催の七夕祭りには七夕飾りを出品し見学にでかけている。今年度は町主催の文化祭にも作品を出展、搬入、見学へ出かけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の近況報告や他委員からの質問意見要望をきき、サービス向上に繋げています。地域の行事なども事前に誘って頂き参加する様にしている。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は、活動状況等を報告後、意見交換を行っている。行政・地域からの情報提供や消防署から防災対策への意見や町の火災件数やケース等を把握する機会等として生かされている。地域からの行事リサーチの場としても活用されているが、議事録の中で参加されたかどうかの記載がされれば参加の無い家族にも分かり易いと思われる。行政へ要望を出す機会としても活用されていることは、防災無線の設置に表れている。	メンバー構成は申し分なく、家族は要望により1年事の輪番での参加とし、参加の無い家族には議事録の送付により情報を発信されている。地域からの情報が、入居者の日常の中で外に出る機会として生かされており、出された情報の進捗状況の説明や記載により、更に委員からの意見・提案が多くなるものと思われ、今後もこの会議をケアサービスに直結いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	芦北町住民生活課主催の認知症初期集中支援チーム等における協議に出席しサービス向上に活かしている。他ホームや包括、ケアマネージャーなどと意見交換や現状を聞くことでケアの向上に生かしている。	地域包括支援センターから在宅生活困難者の相談や空き状況等を聞かれたり、行政主催の認知症初期集中支援チーム等における協議に参加し、意見交換を行うなど法人としても行政と深く関わっている。運営推進会議への参加が顔なじみの関係となり、気軽に相談できる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を法人の中で実施し職員全員が正しく理解し実践に取り組んでいる。玄関居室等の施錠についても身体拘束であると認識し、利用者様の状態を把握し見守りを工夫しケアに取り組んでいる。スピーチロックに関しても現在、改善策アセス実施に取り組んでいる。	身体拘束・虐待は行わないことを前提として、研修や身体拘束廃止委員会(法人全体)の中で、特にスピーチロックを重視し全事業所で検討している。入居者個々の不穏状況・帰宅願望や外出傾向を把握し、見守りの徹底や一緒に外に出たり、時には家族との電話により安心してもらう等個別に関わっている。幹線道路に面しており、今年は事故防止のため、職員の手薄時間帯のみ使用するセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止も職員全員注意し声かけしながら防止に努めている。今後も職員全員が意識を持って取り組んでいきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を設けたいと思う。家族よりこのホームに利用されている方がいないか質問されたことはある。現在対象者はいないが今後学ぶ必要はあると思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書の説明利用料金、重度化や看取りについて、医療連携体制、起こりうるリスクなど詳しく説明している。報酬加算料金改定時には文書を発行し個々に詳しく説明している。経済的不安に対しては個別にて対応相談にのっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様との毎日の会話のなかで意見要望不満等聴くようにしている。内容を必ず職員間で話し合い運営に反映させている。家族の面会時には必ず意見や要望を聴くようにしている。家族要望ノートにて職員間で共有し運営に反映させている。	入居者と職員との関係が構築し、日々の会話や1対1のケア・寄り添いのケアにより要望等を把握している。家族には入居者の現状を理解してもらいたいと利用料金を持参払いとし、良し悪しに関わらず現状報告を徹底し、出された意見や要望は、要望ノートによる共有化や、重要案件は業務検討会で話し合い、サービスに反映させている。また、年1回の家族会は、家族同士の交流の機会として生かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で業務検討会を行い意見を出し合い聴くようにしている。又休憩時などに気付いた点は都度話し合えるようにしている。運営会議の席で理事長事務長、訪看主任を交え意見や提案を出し合い運営に反映させている。	朝・昼・夕の申し送り等情報の共有を徹底し、緊急性がある場合や職員の気づき等休憩時間を活用しながら話し合い、ケアサービスに反映させている。また業務改善会議での意見交換や、理事長・事務長や訪問看護部門からの参加による運営会議の中で意見交換を行っている。法人全体で行う各委員会も充実し、理事長や事務長も頻繁にホームに足を運び、入居者・職員とのコミュニケーションや状況を把握されており、安定した職員体制や管理者を中心とした風通しの良い環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤6名パート1名にて個々の事情を踏まえ、継続して働くことが出来ている。福利厚生者の確立職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は職場内で活かせる環境作りに努めている。今後退職金制度の確立が望ましい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会や町主催の研修会、実践者研修等全職員が参加できるように体制を作っている。研修報告は毎月の月例会時発表している。資格取得に向けてお互い声掛けし頑張っている。今年度は1名介護福祉士合格している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会熊本県支部総会出席、情報交換に努めている。水俣芦北ブロック会に参加交流に努めている。グループホーム間での交換実習や同法人同志の交流など通じ質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーや情報提供書にて事前に本人の思いや不安を全職員が共有し傾聴している。要望等にも耳を傾けコミュニケーションをとりながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と世間話など交え、ゆっくりと話を聞くようにしている。特に不安なこと、要望等は時間をかけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員間で話し合い状況確認し、必要としている支援の提案をし他のサービス利用にも繋げていくよう努めている。相談者との十分な話し合いにも努め、代表者にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の能力に応じ家事や畑仕事等を一緒に行っている。又出来ることはして頂き出来ない事を支援させてもらっている。常に笑顔で接するよう心掛け穏やかに生活して頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の状態を報告相談している。疎遠になりつつある時は電話などで連絡、相談報告をしている。利用者様や家族との関わりを多く持ち良い関係を築けるよう努めている。本人のお誕生会には家族にも参加の声かけもしている。又年に1回家族会を開催し多くの参加を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方など気軽に面会に来て頂ける雰囲気作りに努めている。馴染みの場所などに度々ドライブに出掛けている。古里訪問は2名の利用者様宅を訪問し、近所の方との交流をすることが出来た。今後も続けていきたい。	個別の生活歴やライフスタイル等を把握し、馴染みの関係性の継続に努めており、家族・知人(婦人会活動やデイ利用時の知人)の訪問や遠方からの帰省に合わせ自宅で家族とともに過ごされる方等もある。子どもと会えるのを楽しみに歩行訓練に励まれる入居者や故郷訪問、盆・正月の帰省、墓参、日記を書き続ける方等必要な支援を見極めながら継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士出来ないことをお互い手伝われている場面を職員が見守っている。時々気分の変化にむらがある為、全職員が個々の状態を把握しながら共に楽しく生活できる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書等にて詳しく伝えるようにしている。その後の経過を見守り、必要に応じ相談や支援に努めることを本人家族に伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が本人に聞いたり日常の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。その思いを職員間で共有し話し合いケアに活かしている。時には居室でゆっくり会話することもある。	職員は一人ひとりに寄り添い、よく会話を交わしその中から思い等を把握している。また、入居者同士の会話の中からの把握したり、1対1で居室でゆっくりする時間を作って聞き取りし、伝えたい事が言葉にならない入居者には表情等から推察し家族に相談しながら本人本位になるよう努めている。職員の五感を活かしたケアや自信を引き出す声かけが穏やかな生活となる等、気づきを把握した希望等を話し合い、プランに反映させ実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり前施設などから介護サマリーや情報提供書等などにて経過の把握に努めている。暮らしの情報シートなども利用しているプライバシー保護にも充分努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックにて心身の状態把握に努めている。本人の有する力を職員が気づきチームで把握共有し家事など個々のできる力に応じ手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞きカンファレンスを開催し介護計画をたてている。各担当にアセスメントを記入してもらい意見を反映しプラン作成をしている。現状を把握しながら、必ず見直すようにしている。	入居者一人ひとりの必要とする事案を家族と相談し、一番必要な部分をプラン化している。1ヶ月毎のモニタリングにより継続可否を見極め、6ヶ月毎にアセスメント(担当職員による)から見直した新たなプランは本人・家族の思いやし、医師である理事長や事務長・管理者及び職員も参加する担当者会議の中で検討されており、個々の心身の状況に即したプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践気づきなど個別に介護記録に記入し、職員間で情報共有しながら気づきや工夫を話し合いケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ柔軟に対応している。母体が病院である為医療との連携にて受診入院、病気の早期発見に努め、支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らして行ける様運営推進会議には区長、民政委員消防署員参加してもらい意見交換している。年2回の避難訓練には消防署Qネット、近隣の方などに参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院がかかりつけ医である。利用者様の状態は常に医師に報告又は訪看に相談している。又、状況に応じて専門医の受診も支援している。	入居者全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。特変時の対応、入・退院後の住み替えも法人内で可能であることは、本人・家族の安心に繋がり、気になる点はその都度医師に相談し、状況によっては専門医の受診に繋いでいる。歯科受診は家族対応とし、ホーム内では可能な限りの口腔ケアに努めている。職員は日々の健康チェックや、体重測定の実施、運営会議に参加する代表者(医師)や看護師に健康状態を報告し、アドバイスや指導を受けながら入居者の健康を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。週1回の訪看来荘時情報連絡し、連携、相談している。異常に気付いたら母体の病院にすぐに連絡するなど健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体がかかりつけ医であり、入院時には情報提供しケアについて相談している。病院関係者と利用者様の状態なども情報交換している。入退院時には家族への状態報告や相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に必ず家族に意見を尋ねている。状態に変化が生じた場合にはかかりつけ医と意向確認を対応している。又、入院が必要な場合は職員間で話し合い家族や母体のかかりつけ医、訪看などと連携し支援している。	入居時にリスクや終末期支援について指針を作成し説明している。住み替えのメリットで入居された方も多く、殆どの家族がホームで出来得るところまでの支援を希望されており、その後の判断は主治医に委ねることとしている。これまでなるべく自然な形での支援をとる思いに、訪問看護と連携しながらギリギリまで支援し、最終を医療機関で迎えた例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加している。ミーティング時に対応について不明な点など話し合いをしている。緊急時対応マニュアルを作成し見える場所に貼り実践に活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署近隣の方にも参加してもらい避難訓練している。今年は夜間対応も実施。地域の災害対策連絡会議も声かけお願いし、法人での災害対策委員会にも、協力を得ることができる。	消防署や区長・近隣者の参加協力により年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議の中で訓練や普段の取り組み(避難方法の練習・検討)を報告している。その中でコンセントのゴミの除去・コードの点検などの必要性について指導を受けている。ホームは海に近いことから、津波の心配もあり防災無線の情報に特に注意を払っている。備蓄についてはホームでも揃えているが、主な物は近くの系列施設で備えている。	災害時の備蓄は、ホーム内での必要品をチェックし準備することや、自宅から遠い職員も多く、近隣者の協力要請を行いたいという意向であり、今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様1人々の事を充分理解し言葉かけや対応をしている。居室に入る際は必ずノックをし訪室している。入所時ホーム発行の新聞に掲載してよいか否かお尋ねしている。又業務検討会にて全職員が必ず振り返り注意し合っている。	呼称は苗字や呼ばれなれた下の名など家族の了解を得て対応し、トイレの見守りやズボンの上げ下げ等プライバシーに配慮して支援している。個人情報の使用については家族の承諾を得、職員の守秘義務についての指導も行われている。病院受診に出かける方へ職員が身だしなみを整える姿や、髪を手櫛でセットされる場面など、尊厳やその方らしい暮らしをサポートしている光景が確認された。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話を通じ思いや希望が話しやすいような環境に努めている。食事中など顔の表情にて好き嫌いを把握している。言葉にて意思表示でられない利用者様の排泄など表情や体の動きをキャッチし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様1人々のペースに合わせ本人の意向を尋ねながら支援している。散歩も1人々の状態に合わせて職員が個々に対応し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に相談や協力を得ながら、馴染みの理美容院の利用やホーム内にて本人の意向に沿って散髪支援している。近くの店へ利用者様と一緒に出掛けショッピングなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備を手伝ってもらったり1人々の能力に応じ配膳下膳をして頂いている。出来ない利用者様の配膳下膳は出来る方が手伝っている。食事形態も個々の状態に応じ提供している。	その日の調理担当者が前後の献立や、冷蔵庫内の食材を確認し、調理内容を決定している。また、誕生祝いでは入居者が食べやすいケーキやその方の希望をメインにして作られている。全介助の方も普通食での支援や、在宅時からのお粥を継続する等個々の希望を取り入れている。入居者と一緒に育てた野菜や、ピクニック気分で裏庭での食事、限られ方であるが近隣のファミレスに出かけるなど、楽しい食事を支援している。食材購入や下膳、茶碗ふきなど入居者も出来ることに取り組む、職員も同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様1人々の好みや習慣を全職員が把握している。月に1度体重測定をし増減の確認をしている。必要な食事水分が摂取できているか把握し支援している。場合により、医院の栄養士などに相談をしバランスのとれた食事の支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が口腔ケアの重要性を理解している。利用者様1人々に応じた口腔ケアの支援をしている。夕食度義歯は消毒を毎日支援している。口腔ケアが適切に支援できているかカンファレンスにて全職員で話し合い清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用者様の状態に応じ可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立の支援を行っている。支援の結果入所後リハビリパンツから布パンツへ移行になられた利用者様もおられる。	自立の方の継続や、尿意のある方も多く、見守りやしぐさ、トイレの話をサインとして見逃さず誘導を行っている。昼・夜での排泄用品や、小まめなパット交換が安眠の妨げになる方には吸収性の良いものに変更したが皮膚力低下への配慮から、以前のように2時間ごとの交換が行われている。このような最良の個別支援は、リハビリパンツから布下着への移行という成果となって表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し飲食物に繊維質の多い物を提供したり水分摂取などの工夫をしている。日光浴や毎日の運動散歩などを通じ自然排便を促す工夫をしている。又Drや家族に相談し場合によっては緩下剤などの服用の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や意向に沿って支援している。羞恥心や負担感等を全職員が理解し都度声かけしながら、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。	週3～4回の入浴を午後から中心に支援しているが、「今なら入る！」と、要望を出される方にはその時のタイミングを大切に対応している。体調に配慮しながら、好みの湯温、2～3人での介助、足浴をしながらチェア入浴、毎日の入浴で臭気や清潔保持に努めるなど、個々に支援している。また、冬場は特に入浴前の検温で可否を見極めている。職員から入浴の声をかけられ、着替えをタオルに包み準備をされるなど入浴を楽しみに待たれている光景も見られた。	浴室内は清潔に管理し、個々に応じた入浴が支援されている。今後は脱衣所に置かれた排泄用品をはじめとした物品の収納や整頓を行うことも必要と思われ、全員で収納などの対策を検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人々の要望や状況に応じて対応している。日中は活動や日光浴などを促し安眠できるような支援をしている。ストレスの状態等を申し送りにて全職員が把握し1日穏やかに過ごして頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を介護記録に閉じ、全職員が把握出来るようにしている。状態の経過や変化を訪看に相談したりかかりつけ医に報告している。1人々の薬箱にて飲み忘れや誤薬の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般において出来ることは手伝ってもらっている。本人のペースで生活できる様支援している。季節ごとの行事や誕生会など全員参加で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中医院への電気治療へ出かけ行かない利用者様は散歩や近くの店への買い物などの支援をしている。家族の協力にて墓参りや友人宅自宅に外出されている。月に1度は必ず全員でドライブ(水俣、日奈久方面)に出掛けている。本人の意向により度々外出の支援もおこなっている。	入居者は散歩や地元商店への買い物、母体医院への治療などを日課とし、菜園では畑作業をしておられた方を中心に季節の野菜作りが行われている。また、法人の車両を使用し、町の文化祭に出展した作品の見学や、毎月のドライブ等を支援し、その様子は“千花通信”で開示している。家族も、墓参りや盆・正月などの帰省等協力されている。管理者は外出した事も忘れてしまわれかもしれないが、そのひと時を大切に、今後も外出を支援していきたいという意向である。	入居者の中には、「釣りに行きたい！」の要望も出されているが、職員の配置などで実現が出来ていないようである。まずは釣り場の見学など出来る支援での取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の同意の元に所持されている方もおられ、買い物などの支援をしている。預り金の説明は入所時に必ず行い本人と家族と相談合意を得て管理している。面会時には預り金ノートにて使徒と残金を確認して頂きサインをもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にていつでも電話を使用出来る様支援している。手紙を書く方もおられ、プライバシーに配慮しながら支援し一緒にポストへ投函に出掛ける時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり行事ごとの写真など利用者様と一緒に考え意見を尋ねながら飾りつけをしている。室温も温度計を確認し調節している。居心地良く過ごして頂ける様全職員にて意見を出し合い工夫している。	既存の建物を改修したホームは、玄関から入りリビング・食堂を挟んで左右に、居室や台所・洗面所などの水回りが配置されている。玄関先をはじめホーム内の観葉植物や壁面の飾り物、外出や行事写真の掲示などから季節を感じる事ができる共用空間である。また、趣きの異なる数種のカレンダーの掲示も入居者の目を楽しませている。リビングのソファやテレビなどの設置は、レイアウトも入居者の状況に応じて安全面に配慮しながら検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関と後方の非常口辺りに椅子を準備し1人で外の景色を眺めたりゆっくりできる空間を提供出来る様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し馴染みの物を持って来てもらっている。居室には本人と一緒に写真や手作りの物を飾ったりしている。装飾することを拒否される利用者様もおられる為相談しながら行っている	家族の協力により馴染みや使い慣れた物品が持ち込まれているが、セッティング後も本人の意に沿わない場合は、撤去や移動など見直しが行われている。衣服や帽子、家族の写真など持ち込みの種類や量は様々であるが、物を置かずスッキリとした部屋など個々に応じて安心できる居室環境に努めている。掃除は職員が中心に行っているが、入居者の中には窓ふきに取り組んだり、「私の部屋が一番いいところですよ！」と、部屋を案内くださる方など、自分の部屋に愛着を持って過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行される方が安心して動ける様ソファーや椅子を手摺りの代替になる様工夫し設置している居室も一人々の身体機能や状態にあわせ家族と相談し決定している。トイレに座り足が床に着かない方にはスノコの足置きを設置するなど工夫している		